

第17回ウィンタークライマーズミーティング

報告書

2025年2月23～24日

北海道・十勝連峰・上ホロカメットク山



目次

1：開催目的	2
2：日程 / 宿泊地	?
3：クライミング対象地	4
4：参加者リスト	5
5：活動内容	
(1) スタイルにこだわったウィンタークライミングの実践	6
(2) パーティー編成	7
(3) 登攀の様子	8
(4) スライドショー	10
6: 感想	
7：会計報告	19
8：謝辞	20

1：開催目的

アルパインクライマーの交流

ロープを結びあい、山で実際にクライミングを共にすることによって有意義な交流を目指す。そこで生まれた交流が国内のアルパインクライミング界のコミュニティの広がりにつながることを期待する。日本のウィンタークライミングをより深く味わうためのスタイルの模索、トラディショナルなウィンタークライミングの実践。具体的には既成ルートにとらわれることなく、自由な発想によってルートを選び、極力残置物に頼らないクライミングを実践すること。

WCMの成り立ち

2007年にスコットランドで定期的に行われるBMC（イギリス山岳評議会）主催のウィンタークライマーズミーティング(WCM)に、馬目弘仁、横山勝丘の2名が日本代表として参加したのが発端である。馬目と横山の二人は、世界20カ国約40名のクライマーが集まるこのイベントにおいて、スコットランドにおける冬期クライミングのスタイルへのこだわり、質の高さ、クライミング文化の成熟を実感し、また様々な国のクライマーと交流することで、とても強い刺激を受けた。帰国した二人は、国内でもアルパインクライマーの横のつながりを生み出し、お互いが刺激しあいそれを各自の登山に繋げられるような集まりが開けないものかと模索し、それが第0回のウィンタークライマーズミーティングの開催として現実のものとなった。

第0回が2008年に明神で開かれ、2025年までに計17回を重ねることとなった。場所も滝谷、米子不動、栃木の足尾と様々な場所で開かれ、各回30名前後のクライマーが集まった。そこはクライマー同士の新たな出会いの場となり、国内登山にとどまらず、海外においてもWCMで出会ったパーティーによる成果が生まれている。また普段顔を合わすことの少ない遠隔地のクライマーとも繋がりができ、アルパインクライマーのコミュニティの全国的な広がり貢献している。

2：日程 / 宿泊地

期間：2025年2月23日（日）～24日（月）

宿泊地：十勝岳温泉 凌雲閣別館 上富山荘

2月22日：前泊の受付 / 食事提供

2月23日: 6:00 十勝岳温泉駐車場集合 / 開会式

7:00 アプローチ開始

各自登攀 / 要所で無線連絡

※ パーティーは主催者側で事前に決めたもの

16:00 下山

適宜食事準備

18:00 夕食

19:00 スライドショー (馬目氏、成田氏、中川氏)

2月24日: 希望者は各自クライミング

※ パーティーは参加者がそれぞれ決めたもの

15:00 チェックアウト

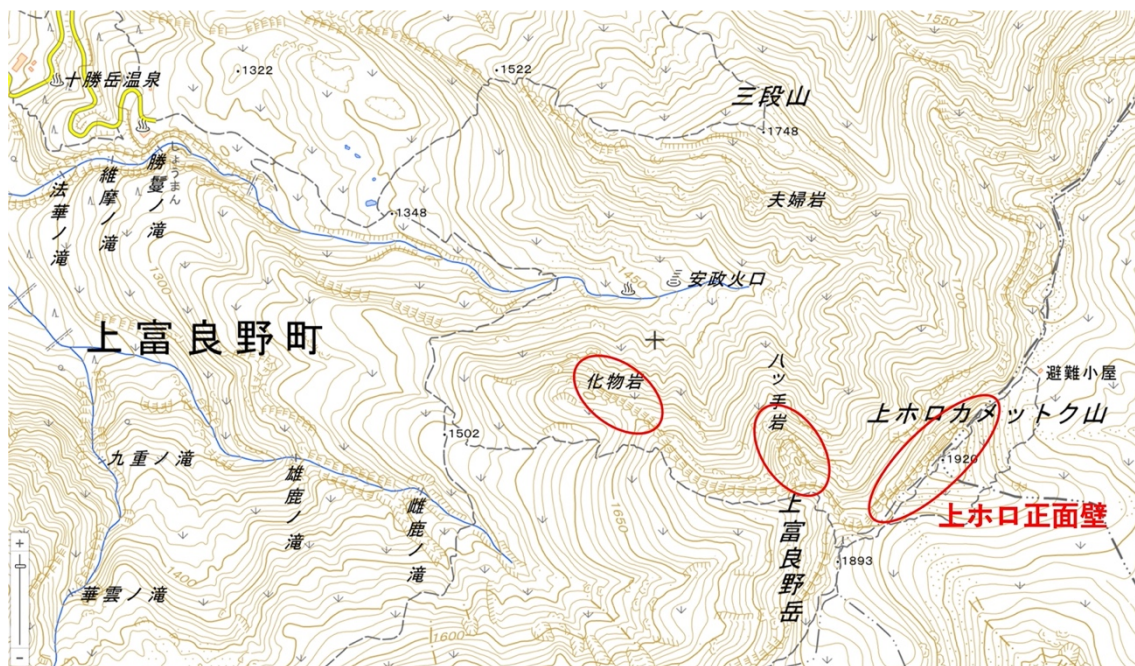
※ 本来はお昼までにチェックアウトすべきであったところを特別延長

3: クライミング対象地

十勝連峰 上ホロカメットク山周辺 (正面壁、八手岩、化物岩)

宿泊ベース: 十勝岳温泉凌雲閣 上富山荘

概念図 (赤丸で囲ったのが今回クライミング対象となった上ホロ正面壁、八手岩、化物岩)



4：参加者リスト

氏名	所属クラブ
中川 博之	札幌登攀倶楽部
小山田 隆博	札幌中央勤労者山岳会
和田 一真	富山登攀クラブ
伊佐見 奈穂子	山登魂
森本 嗣史	現在なし
橋本 哲	G 登攀クラブ
川嵯 摩周	同人クライミング・ファイト
稲田 千秋	山岳同人青鬼
馬目 弘仁	信州大学学士山岳会
加々見 太地	日本山岳会
成田 啓	北大山の会、SAWA MAFIA
丸山 有生	山登魂
王鞍 隼介	G 登攀クラブ
増田 文弥	山登魂山岳会
小峰 直城	SAWA MAFIA
田中 元気	山岳同人青鬼
ローカルサポートスタッフ	
宇野 吉彦	帯広山岳会、旭川山岳会
辻野 健治	室蘭岳友会・札幌北稜クラブ
濱田 裕章	札幌北稜クラブ、北大ワングエル OB 会
杉嶋 純	札幌北稜クラブ
桑原 郁美	札幌北稜クラブ
小林 真	北大ワングエル OB 会

5：活動内容

(1) スタイルにこだわったウインタークライミングの実践

トラディショナルなウインタークライミングを実践すること。具体的には、残置物を一切使わずに全てのプロテクションを自分でセットし、既成ルートにとらわれることなく自由な発想によってルートを選ぶスタイルを指す。

(2) パーティー編成

2月23日

岩場	ルート名	メンバー		
正面壁	コップ状	伊佐見奈穂子	和田一真	小林真
	三段リッジ	橋本哲	森本嗣史	
	フィンガーファイブ	川嵯摩周	稲田千秋	宇野吉彦
	チムニー	加々見大地	馬目弘仁	杉嶋純
	チムニーダイレクト	成田啓	中川博之	
	スペースチムニー	丸山有生	王鞍慧介	桑原郁美
八手岩	北東面	増田文弥	小峰直城	小山田隆博
化物岩	登攀クラブー新宮	田中元気	濱田裕章	

2月24日 (この日は各自で自由にPartyを組んで登攀、不参加の者もいた)

岩場	ルート名	メンバー		
正面壁	コップ状	中川博之	小山田隆博	小峰直城
	フィンガーファイブ	馬目弘仁	田中元気	小林真
	チムニー	増田文弥	濱田裕章	和田一真
八手岩	ノーマル右	伊佐見奈穂子	稲田千秋	桑原郁美
	ノーマル左	川嵯摩周	橋本哲	
	南西面	加々見大地	成田啓	
化物岩	登攀クラブー新宮	王鞍慧介	丸山有生	

(3) 登攀の様子

(企画者側で Partyを編成した初日の様子のみを報告)

2/23: 十勝岳温泉でマイナス 15℃と良い感じに冷え込んだ日に、21 人のクライマーが全国から集まった。定時連絡などの注意事項を確認し、Party ごとで出発する。朝方は晴れて、正面壁も見え隠れしながらの天気の中、大所帯で安政火口へ向かう。夏道がヌッカクシ富良野川を渡るところ(通称旧 D ポイント)で化物岩 Party と別れ、残りのメンバーは安政火口付近まで歩を進める。ここで、スキー、スノーシューをデポしアイゼンを装着、ピッケルを手に各登攀対象へ向かった。上ホロの正面壁に 16 名もの大所帯が取り付いているということは過去に見たことがなく、感慨深い。三段リッジ Party は北西稜から取り付き、八手岩北東面 Party も分かれた。そのほかの Party はアプローチ尾根を正面壁の基部まで登り、そこで身支度をして各ルートへ取り付いた。



写真: 大所帯で正面壁へ向かう



写真: 要塞のように聳える八手岩.

※以下は Party ごとの記録

○コップ状ルート（伊佐見、和田、小林）

1p 目: 雪壁から凹角を超えていく。氷は発達していないラインを危なげなく登る。

2p 目: プロテクションの取りにくい浅い凹角を、雪を掘ってプロテクションをとりながら左上していく。風雪も強まり、ビバカミホロ。カミホロピーク一番乗り。



写真: コップ状ルート 1p 目の凹角にスムーズにロープを伸ばす和田.

○三段リッジ（橋本、森本嗣史）

1p 目: 記録の少ないライン。ぶっ立ちテクニカルなラインに 60m いっぱいにロープを伸ばす。

2p 目: クライミングは難しくないが、オーバーハングラッセルのために時間がかかり顔面氷漬け。

3p 目以降は難しくない雪稜で、コンテでスピーディーに抜けた。実質クライミングパートは下部 2p だった。



写真: 三段リッジのテクニカルな 1p 目を登攀する橋本.

○フィンガーファイズ（川嵯、稲田、宇野）

1 p 目: 顕著な凹角を目指す。雪田前は若干被り気味。途中は icy なコンディションでアックスがよく効く。

2 p 目: 見晴らしの良い広い壁で弱点を突きながら 3 p 目の凹角を目掛けて巧みに進む。ぶっ立ちだが、じわじわと確実にロープが伸びていく。風もそこそこでビバの様相。

3 p 目: 凹角を 5m 程登り、被り気味をエビの尻尾を豪快に破壊しながら越えると緩傾斜となり最後は上ホロの山頂標識でビレイ。



写真: プロテクションの悪い Finger five 2p 目を攻める稲田。

○チムニールート（加々見、馬目、杉嶋）

1p 目: バチ効きのイボイボに驚きながら、楽しげに凹角を登っていく

2p 目: チムニーの出口手前の左手のストロングラインをランナウトで攻略。フォーローを笑顔で迎える。



写真: チムニールート 2p 目の名物のチムニーに入っていく馬目。

○チムニーダイレクト（取り付き尾根正面ダイレクト～ダイレクトルート）
（成田、中川）

1P 目: 浅い凹角のクラックを辿って右のリッジ上へ。抜け口が悪いが粘りのクライミングで一撃。プロテクションの設置も早く的確。

2P 目: 雪壁を左上。

3P 目: 薄い氷と草付きを辿って直上。途中敢えて悪いコーナーに進む。楽しんでいる。

4P 目: 短い雪壁で頂上へ。



写真: ぶっ立ちの取り付け尾根正面ダイレクト 1p 目を登る成田。

○スペースチムニー（右ラインのバリエーション）（丸山、王鞍、桑原）

1P 目: 微妙な体制で猛烈な除雪を強いられ、除雪後の岩もフッキング、トルキング多めの難しい岩

2P 目: 真正面に反りたった雪壁、右から簡単に巻けるので右ヘトラバースして稜上に出る。



写真: スペースチムニー1p目を登り始める王鞍. この後、無限の除雪が始まる

○八手岩北東面（増田、小峰、小山田）

1p目 ルンゼ突き当たりのテラスでロープを結び、左上の弱点らしいところを探して登る。ベルクラはなかったが、赤茶色の脆い岩がカチカチに凍っていて助かった...。ピナクルに立ってビレイ

2p目 傾斜の強い出だしが核心

3p目 雪壁をリッジまで



写真: 八手岩北東面の脆い壁をフォローする小山田.

○化物岩 登攀倶楽部ルート～新宮ルート（田中、濱田）

1p 目: 手がかりの少ない露岩にアックスを決めながらロープを伸ばしていくが、途中あっけなく弾かれてフォール. 心が折れるがなんとかトップアウト.

2p 目: 取り付きまでコンテで右に移動. 回り込む手前でそれらしきラインを見つける。段差を越え、オフウィドゥスに挟まりながら、上部は外に吐き出されるもスムーズに突破。



写真: 登攀倶楽部ルートで手がかりの少ない岩をジリジリと進む濱田.

(4) スライドショーの様子

23日の夜に3件のスライドショーを実施した。

馬目氏: ネパール チョッパ・バマレ峰

成田氏 パキスタン ヒンドゥーラジ ツイII峰、日高山脈 厳冬期直登沢

中川氏 北海道の冬季登攀



写真: チョッパ・バマレ峰遠征の報告をする馬目氏.



写真: 日高直登沢のアイスクライミングの報告をする成田氏.



写真: 自身が道内各地で展開してきた冬季登攀の様子を紹介する中川氏.

ネパールやパキスタンでの海外高所登山の話から、身近な北海道：日高を舞台とした新しいスタイルでの冬季クライミング、そして今回の舞台のカミホロでの登攀を含む北海道で実践されてきたウィンタークライミングなど、3人の演者からヴァリエーションに富んだクライミングの報告を聞くことができた。通常の報告会とは異なり、夜遅くまで酒を飲み交わしながら活動・遠征に関わるマニアックな話題を深掘りできる時間、そしてスライドショーでモチベーションが上がったところで次の日のクライミングについても話し合う雰囲気へ相乗効果もあり、最高だった。

スライドショーの最後にはじゃんけん大会を行い、勝者は協賛企業である秀岳荘様より提供いただいた豪華協賛品を獲得するなど盛り上がった。



6: 感想

馬目: ずっと前から登ってみたいと思っていた「上ホロ」に来る機会を得られたことがとても嬉しいです。実体験として、この山と壁の厳しさと難しさを知れました。（アプローチの雪崩の危険、この壁独特の難しさ、下降路の選択など）各パーティーに地元・北海道のメンバーを加える配慮をしていただいたこと（杉嶋さん、ありがとうございました！）に感謝です。WCMの運営に関しては満点だと思います。お宿で居心地よく快適な生活ができて良かったです。皆との雑談も楽しめて、総人数もちょうど良かったのではないのでしょうか。クライミング帰着後のゆとりもあって良かったです。と、とにかく良かった尽くしです。世話役をはじめ、スタッフの方々に感謝申し上げます。最高でした！

小峰: 初日のハツ手北東面ではカチコチに凍ったボロ壁 MIX、2日目の正面壁では大御所中川さんとのコップ状。どちらも刺激と学びが盛り沢山でした。守備力高めて、ビバ・クライミング！

森本: はじめて参加で猛者の集まる WCM というイメージから少し緊張していたが実際は本当に冬のクライミングが好きな人の集まりで、様々な刺激を受けることができました。時間都合上 1 日しか登攀はできず、またもっと多くの人とコミュニケーションを取りたかったと思います。美味しいごはんから温泉、報告会と素晴らしい時間でした。登攀についてもスコップを使っただけで、カミホロらしいクライミングができました。来年機会があればまた WCM に参加したいです。準備してくださった皆様ありがとうございました。

稲田: 全体を通して運営の皆様には手厚いご配慮をいただき、安心して楽しくクライミングに集中することができました。上富山荘という素晴らしいベースで快適に寝ることが出来ましたし、更に温泉まで入れるという素晴らしい環境に感動いたしました。夕食は広い食堂で美味しいジンギスカンをいただき、他のクライマーとの交流もしやすく沢山の方とお話しすることが出来ました。3 人の方の発表もバラエティに富んで大変興味深かったです。そして何より、カミホロカメトック山は素晴らしいウィンタークライミング道場だと再認識しました。これほどアクセスが容易なのに、気象は荒く、壁にはびっしりと氷雪やエビの尻尾がへばりついていてクライマーを威圧し、それでいてラインは豊富にあるという場所は本州にはなかなかないのでは、と思います。私は初日フィンガーファイブに登らせていただきましたが、雪、氷、岩、強風、寒さ、全てを満喫させていただきました。とても密度の濃い二日間でした。運営スタッフの皆様、本当にお世話になりありがとうございました。

和田: まず、17 回目の WCM に携わってくださった皆様並びに協賛団体に御礼申し上げます。素晴らしい運営の御蔭でクライミングと温泉を存分に楽しむことができました。初めての北海道でしたが、厳冬北アルプス稜線のような環境でのクライミングがアプローチ 2 時間でできることに驚嘆しました。クライミングの内容も本州には滅多にないエビの尻尾+除雪クライミングでプロテクションワークも難しい。骨太クライマーを育てる環境が整っているなあと感じることができました。WCM というきっかけで各地のクライミングや自然を知るよい契機となることと思います。これからも全国各地の岩場で WCM が開催できるよう、冬壁愛好家同士の緩やかな繋がりが続くことを願ってます。

王鞍: 本州から飛行機に乗り、はじめて北海道の冬壁を登る身として、必要なギアの情報共有や装備の貸出、そして送迎までアレンジしていただける体制が大変心強く、当日もクライミングに集中することができました。上ホロという場所は、いままで本州では経験のなかったエビのしっぽの永遠に終わらない除雪、急激に吹き荒れる天候、短いピッチにもかかわらず中身のぎっしり詰まったルートの数々を存分に味わうことができ、なおかつクライミング後の交流の時間もたっぷりあるという稀有な存在だと感じました。宴会では溜まった疲れでほとんど意識朦朧としてしまいましたが...また北海道で WCM が開催される際には、是非とも参加したいと思います。本当にありがとうございました。

田中: 勢いのある若手から、レジェンドクラスのベテランの方々といっしょに過ごし刺激がもらえました。ニッチな活動を思考するだけあって、みんな一人ひとりキャラが立っていて面白かった。今後も機会があれば参加したい。スポンサーいただいた団体および企業の皆様ありがとうございました。」

伊佐見: 北海道カミホロは以前から気になっており、今回本当に貴重な機会をありがとうございました。これだけ短いアプローチでも一級品の冬壁が登れる貴重なエリアである反面、天候条件により凍傷、ホワイトアウト、雪崩などリスクもあり経験がものを言うエリアだとも感じました。(今回 WCM 前に行った個人山行で左手中指、WCM で顔が軽度の凍傷になってしまい、自分の認識の甘さに反省しております)

パーティ編成/ルートについては、初めての壁を登るうえで、小林さんリーダーのパーティ編成で、不安なく登攀を楽しませていただきました！コップ状ルート 2 p 目、登りごたえあり短くも充実した内容です。

懇親会については、夜のスライドショーはすべて興味深い内容でしたが、中でも中川さんの北海道ローカルの登攀や武勇伝が面白かった。また北海道で登りたい！と思える内容でした。

運営/協賛については、事前準備から、当日の本部対応まで本当にお世話になりました！！夕飯のジンギスカンと凌雲閣の温泉には大満足です。それから、資金面の補助がとてもありがたかったです。

成田: 通い慣れた上ホロでしたがこんなにも多くの人が壁に取り付いている光景は初めてで感慨深かったです。正面壁取り付け尾根ダイレクトはテクニカルなぶっ立ちで、かなり充実したピッチでした。初登の中川さんにビレーしていただいたのも感無量です。その後は中間バンドを左にトラバースして上部壁ダ

イレクトに登りましたが、こちらはオーソドックスな上ホロらしい登攀で、朝は穏やかだった天気がビバ気味になってきたのも相まって楽しかったです。2日目は八ツ手岩南西面に行きました。こちらは天気もルート内容もマイルドでしたが、最後雪田をトラバースして巻くところを直上してみたら充実しました。楽しい2日間でした。ありがとうございました！

桑原: 強く経験豊かな皆さんと登ったり、お話をできて、刺激的で楽しい2日間でした。今後もさらに冬壁を続けて、WCM 参加したいです。また、道内参加者のサポートがあり、楽しめました、ありがとうございました。

小林: 運営サイドの一人として、事故なく充実の Meeting を開催でき、安堵しています。同時に、第一線で活躍するクライマーたちと交流することができ、遠征のアイデアやモチベーションをもらいました。このつながりがきっかけとなり、より多くの素晴らしいクライミング、山行が生まれることを願って。

協賛いただいた皆様、ありがとうございました。

7：会計報告

2025年 ウィンタークライミングミーティング 会計報告									
道内参加者(スタッフ別)			2 名		道内参加者予定者(スタッフ)			6 名	
道外参加者			15 名						
収入	項目		内訳					小計	
	前年度繰越金							145,381	
	参加費		23日泊		6,000	円×	4 名＝	24,000	
			22, 23日泊		10,000	円×	12 名＝	120,000	
	補助金・寄付金		JM SCA	300,000	道央労山	30,000		490,000	
GOLDWIN			100,000	札岳連	10,000				
道岳連			30,000	旭川山岳会	20,000				
合計							779,381		
支出	項目		内訳					小計	
	宿泊費	凌雲閣別館 上富山荘	宿泊費(前泊)	3,300	円/名×	17 名＝	56,100	148,200	
			暖房費	500	円/名×	17 名＝	8,500		
			宿泊費	3,300	円/名×	22 名＝	72,600		
			暖房費	500	円/名×	22 名＝	11,000		
	食料費	食材費 (前泊タ+夕食+朝食) 調理具・調味料等	ジンギスカン	22,000	その他食材	32,158		90,214	
			カセットボンベ	3,295	食器類	6,080			
			水用ポリタン	767	キッチン用品	994			
			酒代	24,916	消費税端数	4			
							90,214		
	事務費・通信機器借用		紙・筆記用具・報告書作成費等					11,237	57,042
			無線機レンタル					35,530	
			送料等 (振込手数料220、返送料2,610)					2,830	
			携帯トイレ購入 (便座のみ)					3,448	
			同 送料 (送ったが使用せず送料のみ)					1,010	
			ガスカートリッジ 6本					2,987	
	旅費	スタッフ・協力者補助費	交通費補助 30円/km 往復で計算						
		寄付依頼活動費	交流会参加費	5,000	円/名×	2 名＝	10,000	79,500	
	参加者交通費補助 (道内外参加者交通費補助)		道外	15,000	円/名×	14 名＝	210,000	226,000	
			道内	7,000	円/名×	1 名＝	7,000		
					9,000	円/名×	1 名＝		9,000
	講師謝礼		講演料含み					10,000	
	支出小計							610,956	
	予備費(含繰越金)							168,425	
	合計							779,381	

8：謝辞

WCM の実施にあたり、以下の団体のサポートをいただきました。謹んでお礼申し上げます。

協賛：（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会、（株）ゴールドウィン、北海道の山の店 秀岳荘、北海道山岳・スポーツクライミング連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟、旭川山岳会、札幌山岳連盟

